２０１９年６月

ラムサール条約湿地登録７周年記念

渡良瀬遊水地の将来に向けた提言

「ワイズユースで拓く
渡良瀬遊水地の未来」

わたらせ市民フォーラム

はじめに

渡良瀬遊水地は、日本の公害の原点と言われる明治期後半の足尾銅山の鉱毒により渡良瀬川流域の農漁業に大きな被害をもたらした足尾銅山鉱毒事件による鉱毒被害対策のため、旧谷中村を廃村にして建設された遊水地です。衆議院議員の職を辞して鉱毒被害を天皇に直訴した田中正造翁と共に遊水地建設に反対して１９０６年の廃村後も退去しなかった１６戸は翌年に強制破壊され、その後も仮小屋を立てて住み続けた村民たちは１９１７年まで旧谷中村にとどまっていましたが、１９１８年までに周囲に堤防が築かれ、渡良瀬川が付け替えられて現在の遊水地の原型が完成しました。

その後、かつての農地にはヨシ原が広がり、そのヨシを使って作られるヨシズ産業が興り、１９５０年代からは優良なヨシが生育するようにと早春にヨシ焼きが行われるようになって、本州以南最大のヨシ原として維持されて来ました。米軍や自衛隊の演習場あるいは国際空港にとの開発の危機を乗り越え、２００２年には第２調節池の貯水池計画も中止されて、その後本格的に展開された地元のラムサール条約湿地登録推進の運動が実を結び、渡良瀬遊水地の多くの絶滅危惧種を含む野鳥、植物、昆虫等の生物多様性の豊かなヨシ原の生態系が評価され、国際的に重要な湿地として、２０１２年７月３日ラムサール条約湿地に登録されました。

２０１９年の今年は条約湿地登録から７周年になります。この間自治体、民間で渡良瀬遊水地関連の様々な事業・取組が行われてきました。第２調節池では利根川上流河川事務所による湿地保全・再生事業によって大小さまざまな池が出現し、同河川事務所や関東地方環境事務所、地元４市２町や民間団体による渡良瀬遊水地保全・利活用協議会も設立され、コウノトリ・トキの舞うふるさとづくりの取組も功を奏してコウノトリが定着する等、登録前には予想もしていなかった活況を呈しています。

しかし、ラムサール条約湿地である渡良瀬遊水地全体として数十年後に何を目標にするのかという明確なビジョンは存在していません。ラムサール条約はすべての湿地のワイズユース（「賢明な利用」）を目指していますが、渡良瀬遊水地でのワイズユース実現のためには、国と地方、自治体間、官民の垣根を越えて、ひとつの遊水地としての共通の将来ビジョンの下での取組が必要です。

渡良瀬遊水地関係者がより賢明になって垣根を乗り越え、誰もが「私たちの渡良瀬遊水地」と呼べるような状況にしていくために、登録１年後に「渡良瀬遊水池をラムサール条約登録地にする会」から現在の名称に変更した「ラムサール湿地ネットわたらせ」は、民間の有志が自由な立場で参画して意見交換する「わたらせ市民フォーラム」を２０１８年１月に小山市、３月に栃木市、６月に野木町、９月に古河市、１１月に板倉町、２０１９年２月に加須市、３月に小山市、５月に野木町で計８回開催し意見交換してきた成果としてこの提言書をまとめることができました。

２０１９年６月２９日には栃木市藤岡文化会館で利根川上流河川事務所長と４市２町の首長をお招きして、この提言書に基づき渡良瀬遊水地の将来ビジョンをテーマにしたシンポジウムを開催して、ひとつの遊水地をめざす具体的な取り組みを始めたいと思います。

わたらせ市民フォーラム参加者一同

事務局：ラムサール湿地ネットわたらせ